

人 チーム 制度



管理職へのインタビュー！  
チーム全体でのワークライフバランス向上  
～あなたにとってのワークライフバランスとは～

日本工営（株）  
うちやまゆうすけ  
内山雄介さん

プロフィール

氏名：内山雄介（43 初老！）  
所属・役職：河川・水工部 課長  
勤続年数：18年目  
主な業務：河川計画、流域管理  
水環境・水循環など  
家族構成：妻、長女（中3）、  
次女（小1）



今回ご紹介するのは、日本工営（株）河川・水工部で課長を務めている内山雄介さん。管理職として、業務管理だけでなく、グループ全体の労務管理や一人ひとりのワークライフバランスについても真剣に考えていらっしゃいます。そこで、社員一人ひとりのワークライフバランス実現のためにチームとして取組んでいることについてお話を伺いました。

管理職の視点から、社員のワークライフバランスについてどのように考えられていますか。

ワークライフバランスに対する考え方は個人差もある上に、経験年数や繁忙度（肉体的・精神的な状況）などによって違ってくるとしています。メンバー全員で共通レベルを設定（共有）することもできないですしね。打合せの際の電車の中での会話や、飲んでいる席などの機会で、その都度肌で感じるようなものだと思うので、積極的に声をかけ、一人ひとりと接する機会を持つように心がけています。

メンバーの数だけワークライフバランスの多様なスタイルがあるということですかね？

ワークライフバランスとは、「やりがいのある仕事」と「プライベートの充実」の両輪が必須だと思います。

「やりがいのある仕事」は、どんな仕事をしたいのか？やりがいを感じているのか？を考えてもらうことが最も大事だと感じています。

一方、「プライベートの充実」については、まず充実の尺度を明確にすることが意外と難しいのかなと思っています。“あなたにとってプライベートの充実とは何ですか？”と聞いても答えられる人は少ないのではないのでしょうか。実はこれを明確にしておくことが大事で、自身のプライベートの充実の尺度を気づいていないことにはワ

ークライフバランスは成立しないと思っています。この両方を意識していなければ、ワークライフバランスを“残業削減”と勘違いしてしまう。改めて皆さんに自身のプライベートの充実の尺度を考えてもらいたいです。ちなみに「家族・仲間との親しい関係の継続」と「毎晩しこたまビール飲んで布団」が私のマイライフの尺度です。

これら両面を踏まえたワークライフバランスを実現することで、生産性の向上に繋がり、一つの結果として残業削減に繋がるのではと考えています。

というわけで、部下へ緊急調査！

「あなたにとって理想のワークライフバランスとは？」

あなたにとって理想のワークライフバランスとはどういうことですか？



若手社員

今は仕事に力を置きたいですね。まずは技術を身につけたいので、仕事時々友人と遊ぶくらいの感覚が理想的かなと思います。

仕事に対しては責任感を持って、こだわりを忘れずにやれること（量）、かつ自信のスキルアップ（仕事だけでなく）に充てる時間があること。

仕事量や残業時間の削減だけに着目しては個々のワークライフバランスは実現できないですね！



中堅社員

社員一人ひとりの理想的なワークライフバランスを実現させるために、チームとして取組んでいることはありますか？

会社（上司）として最も配慮すべきことは「やりがいのある仕事」をしていると実感させられるかですね。社員それぞれが毎年新しいテーマの仕事をする（毎年同じような仕事のみにならないように配慮する）とか、違うタイプの上司・先輩と一緒に仕事をする（いろいろな考え方や働き方があることを実感する）などの経験により、自身の「やりがいのある仕事とは何か」を考えるきっかけをつくりたいと思っています。

「プライベートの充実」に向けて会社としてできることは、大切な家族や親族のイベント（慶事、学校行事、出産、デートなどなど）の時に、プライベート優先でも大丈夫という組織と雰囲気をつくることにつきますと思います。

この“ワーク”と“ライフ”の両面を考えて、グループとしても、十数人からなる組織を細かいユニットに分けず、常に色々な人と仕事をできるような体制を組むように工夫しています。若手にも色々苦勞もあるでしょうが、私のグループでは若手社員が積極的にリーダーシップをとったり、上司・先輩に意見を行ったり、気軽に飲み会へ誘うなど、雰囲気はとても良いと思っています。コンサルタントとして必要不可欠な「人間力」や「会話力」の向上の効果もあったのかなと思います。

